

再生医療PRP治療が示す、新しいひざ関節治療の選択肢。

多くの人を悩ませる膝の痛み。新たな治療法として自身の血液を用いる再生医療が注目されている。東京都北区にある赤羽静脈瘤クリニックの岡本慎一理事長に、最新の膝の除痛治療であるPRP関節注射について聞いた。

膝痛に苦しむ患者に、再生医療という選択肢。

2014年に開院した赤羽静脈瘤クリニックは、血管外科医、整形外科医、再生医療の専門医が連携をとりながらさまざまな疾患の治療に当たってきた。近年特に力を入れているのが、再生医療を用いた新しい膝関節症治療だ。

「湿布や痛み止め、ヒアルロン酸などで膝の痛みを緩和しきれなくなってきた患者さんによく新たな選択肢が生まれました」

同院の岡本慎一理事長は、再生医療であるPRP治療は、老若男女を問わず、手術をせずに高い除痛効果を得られると語る。

膝痛に苦しむ患者の多くは、老化などにより膝の関節の軟骨の質が低下する変形性膝関節症を患っている。この変形性膝関節症に対して、自らの血液から採りだした多血小板血漿を濃縮し、注射する

PRP治療は、体が本来持っている修復力をサポートする。

「自身の血液を使用するため拒絶反応やアレルギー反応が少ない。

体の修復力をサポートする血小板を効果的に働かせるPRP関節注射は、膝の軟骨の摩擦によって症状が進行する変形性膝関節症の治療にも有効です」

治療に当たる岡本理事長は、

2010年からPRP治療の研究を重ね、2011年の整形外科学会「Orthopaedic Research Society」(アメリカ、ニューオーリンズで開催)では、ニューインベスティゲーターアワードのファイナリストに選出。2012年にはPRP治療の先進国、アメリカで治療特許を取得している。

PRPとPRP-FD注射で、新たな選択肢を提示。

PRP治療は、膝関節の軟骨や関節包、周辺組織などに働きかけ

るため、痛みの軽減や進行予防に効果的で、国際学会では、関節の軟骨が再生したという報告発表もなされている。

「保存的治療で膝の痛みが緩和できなくなった人、痛みはあるが手術は……という患者さんに希望の持てる画期的な治療法です」

同院では、通常のPRPの他にもPRPを凍結乾燥させ、成長因子の濃度を2倍以上に高めるPRP-FD療法も行っている。

前者には、採血当日に注射可能というメリットが、後者は採血から1週間以降に注射となるが、より高い治療効果が見込める。

「治療効果が高いPRP治療を多くの人に提供したい。だからこそ我々は、クリニックの利益よりも患者さんの費用負担を考え、できる限りリーズナブルな価格で提供しています」

同院では、通常のPRPを片膝2万9800円、PRP-FDに



同院では再生医療を含む高度な医療の提供はもちろん、接遇や待ち時間の短縮など患者本位の治療を心がける



理事長
岡本 慎一 Shinichi Okamoto

2002年、京都府立医科大学卒業。2012年、京都府立医科大学大学院修了。2014年2月、赤羽静脈瘤クリニックを開院する。2018年1月には、医療法人社団康静会理事長に就任。医学博士。日本整形外科学会認定整形外科専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医。



医療法人社団康静会
赤羽静脈瘤クリニック

〒115-0045
東京都北区赤羽2-15-10 山田ビル3階
TEL.0120-162-026

https://akabane-clinic.jp/

■ 診療時間：【予約制】
月～金曜：10:00～18:00
土曜：10:00～17:00

■ 休診：水曜・日曜・祝日
■ 診療科目：整形外科・血管外科

※保険適用外自由診療
PRP治療(片膝)税込み 29,800円
PRP-FD治療(片膝)税込み 95,000円